



# ふるさと活動隊・天童 2017



三宅麻祐（政治経済学部4年）

宮本寿樹（文学部3年）

鹿島千花子（文学部3年）

山田拓哉（情報コミュニケーション学部2年）

小林直樹（商学部1年）

# 創立者出身地ふるさと活動隊2017

## 山形県天童市 天童市のふるさと納税と果樹産業の学習

### はじめに

明治大学は創立者の宮城浩蔵の出生地である、山形県天童市と協定を結んでいる。私達ふるさと活動隊は、その協定に基づき天童市に伺い、全国でも屈指の成果を上げている、市のふるさと納税への取り組みを学び、そしてふるさと納税の中核にもなっている市の果樹産業の実態に触れさせていただいた。



### 天童市の概要

天童市は山形県東部の盆地に位置し、水質や農耕に恵まれた風土を持つ。市では果樹や稲作をはじめとする農業、蕎麦などの食品製造も含む水が重要な第二次産業、温泉を中心とする観光業など、気候を活かした産業が盛ん。一方で江戸後期から続く将棋駒の生産、長年保存されてきた史跡など、文化的な街でもある。





# 行程表

9月13日の23時に東京駅高速バスターミナルを出発し、14日の朝6時に天童に到着！



- 初日：天童市役所（講義）→将棋駒→若松窯→若松寺
- 2日目：天童木工→JA天童→道の駅  
（自転車を食べ歩き）→事業者様との懇親会
- 3日目：王将果樹園→舞鶴牧場
- 最終日：王将果樹園→赤塚製氷→ゆぴあ

そして最終日17日の22時過ぎに高速バスに乗り東京へ…



# 天童市のふるさと納税

平成25年度の学生派遣プログラムでの提案もあり、平成26年度から返礼品の贈呈を開始。ふるさと納税受け入れ件数、受け入れ額で毎年全国上位に入る自治体に。

他の自治体に比べてかなり厳しい規制やルールを設けている。事業所や返礼品の各要件を一定数以上クリアした上で、市のブランドイメージに繋がる点を重要視。

## 主な返礼品



将棋駒  
フルーツや米、山形牛  
地酒・ワイン  
温泉  
木工製品  
菓子

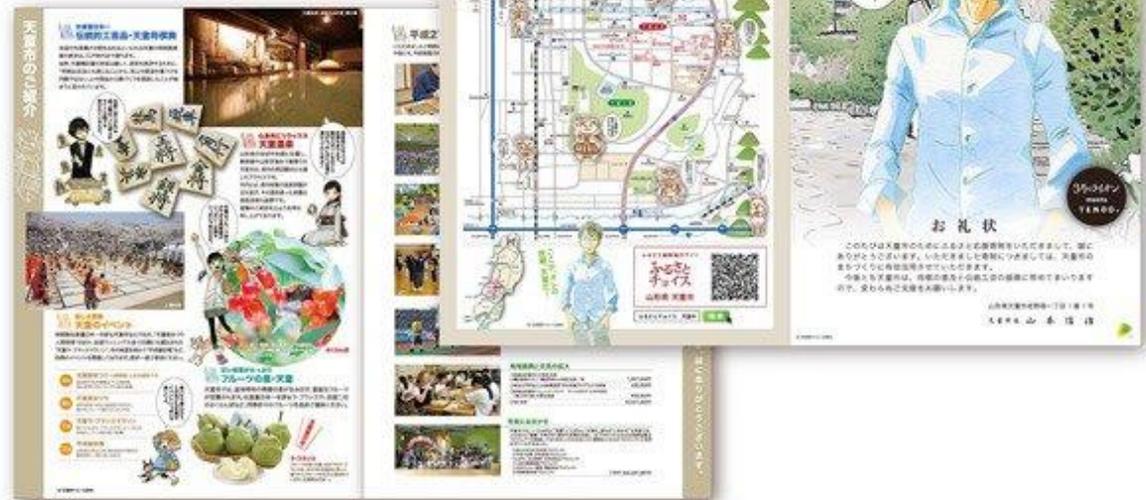
公募で返礼品の取り決めを行なっている



天童市役所のふるさと納税推進室にて  
レクチャーを受ける

# 天童市のふるさと納税の特徴と工夫

- ✓ 当時の主流は特定のフルーツだけを出すものだったが、四季折々のフルーツを全面的に推して展開
- ✓ 希望の名前を彫った将棋駒ストラップをおまけでプレゼント
- ✓ 人気の将棋漫画『3月のライオン』コラボパッケージデザインのお米
- ✓ 寄付した人にお礼状を送る



※デザインイメージです。実際の品とは異なる場合がございます。

## 返礼品 + 寄付に思い出という付加価値



### 高リピート率化の実現

多くの自治体が3,4割のところ天童市はH29時点で76.8%。  
ちなみに、寄付者の年齢の全国平均は30~40代、天童市は40~50代で女性が多い。

### 将棋駒産業の規模の持ち直し

ピーク時の昭和55年から約1/4にまで縮小していたところ、H28年には三億円（ピーク時の約3/5）にまで回復。

財源確保、産業振興に加えて持続可能な経営基盤、マーケティング分析、まちづくりへの反映を目的として、市全体で様々な工夫と熱意を持ってふるさと納税に取り組んでいる。

# 王将果樹園

## 天童市の果樹産業

### 果樹園で体験作業！

桃の収穫と収穫後の片付けなどをお手伝い。

他の農業と違い、  
機械化できない手  
作業が非常に多い。  
身を以て果樹産業  
の大変さを知る…。



6月	7月	8月	9月	10月	11月
	さくらんぼ🍑		桃🍑		
			ぶどう🍇		
				りんご🍏	



自分たちの手でもぎとったばかりの桃を味わえるのは果樹園の醍醐味

# 六次産業を生体験！

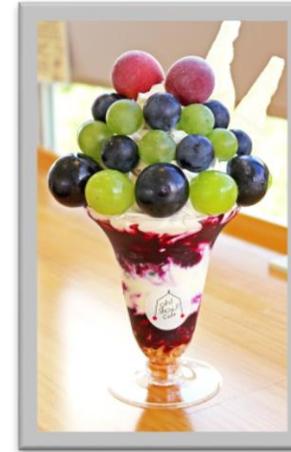
一次産業 = 農業



二次産業 = 加工  
ex) ジュース



三次産業 = サービス  
ex) カフェ、物販



六次産業



採れたての  
果物を直売



その時期に  
採れた果物や  
加工した物を販売



# 将棋駒

天童市の特産品である将棋駒を製造している中島清吉商店さんを訪問。



将棋駒を機械や  
手作業で彫る様子



## 天童焼 若松窯

天童市を一望できる若松寺のふもとにある若松釜で焼き上げる天童焼のギャラリーへ。独特の天然発色のブルーの焼き物が特長。



# 天童木工

世界で認められた曲線を描く技術、成型合板を巧みに生かした家具が特徴の天童木工さん。

一般公開していない工場の中を見学。ほぼ手作業によって作られていることに驚き。



皮表面についている白い粉みたいな「ブルーム」が多いほど良いすももなんだって



## JAてんどうフーズ

農産物が産地から消費者の元に届くまで、その過程を学んだ。選果で廃棄、もしくは加工用にまわされる量が想像よりもはるかに多いこと、味も大事だがそれ以上に消費者目線の「おいしそうな見た目」に重点を置いていることなどを知り、果樹産業の大変さを実感。

リオ五輪で使われた卓球台の脚部分を担当



# あったらいいな、こんな返礼品

## 天童菓子屋めぐり券

天童市内の菓子店で使える商品券。「物品によって届けることができない市の魅力を発信する手段」。

天童市はふるさと納税の「地域の魅力を発信する」性質を重視している。また活動中、返礼品化できていない魅力に「『腰掛庵』のわらび餅」が挙がった。しかし直接品物を届けるのが難しい。

「腰掛庵」含む市の菓子店は組合を作り、ふるさと納税には各店、組合経由で参加していることが分かった。

活動中の「甘味の食べ歩き」が楽しかったことを踏まえ、自分達と同世代の人が納税をしたくなり、「腰掛庵」以外の市の魅力も知るきっかけに繋がる返礼品として考案。



# 次年度以降の活動隊の課題

今年度の天童市の活動隊プログラムは、次年度以降の活動隊の方向性を占う、試験的側面も持っていた。そこで私達が考えた今後の活動隊の課題は「組織としての社会関係資本の蓄積」である。

ふるさと活動隊の元々の目的は、地域への寄与と、外部からの地域の認知の獲得だ。しかしこの二つだけでは、現在でも活動隊の断続性が否めない。「活動隊」の実質は「プログラム」であり、仮に「組織」と捉えるならば人員の流動性は逃れられない。そこに年度を越えた組織的継続性を求めるのは難がある。少なくとも現在の活動では実現できていないと思われる。これを解消する方策として、私達は社会関係資本の充実が必要だと考えた。

今回の活動隊は過去と異なり、地元の行政組織だけでなく、民間組織とも深い交流を得た。例えば、市の事業主の方々の交流会にお招きいただき、親睦を深めることができた。民間組織は行政組織

と異なる問題意識を持つ。異なる所属の方々と接し、私達も地域への認識を深めることができた。そこで活動隊を組織として、これまでより広い範囲で関係を作ること、地域の課題を知り、活動隊の課題創出に繋がられる可能性があると感じた。課題は年度を越えて共有されることが出来る。例えば農業においては後継者不足が懸念されていた。これに対し活動隊が、地域の中高生や保護者に大学、特に農学部を広報し、あわよくば入学して頂き、間接的に将来の農業人材増加に寄与できる可能性は皆無ではない。人材への寄与は難しくとも、大学の広報を通じ、少しでも地域の方々に明治大学に意識を向けてもらうのは、志向の多様化を及ぼす点でも、活動隊の元々の理念から離れてはいないはずだ。

従って私達は、活動隊は地域の様々な人・組織と関係を持ち、それを深めていくことが重要であると考える。



天童市の方と良縁を築けよう  
 ように！！  
 良い出逢いがありましたように！！  
 H.29.9.14  
 明治大学  
 ふりこと活動隊一同



天童市と明治大学との御縁が  
 今後も広く長く繋がっていきますように。  
 ありがとうございました！

